## パウロのライフデザイン ~献身と宣教の人生

ライフステージ	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
地域																
年代		AD30					AD35					AD40				
18 Sr						48	*_			ペテロ:ルダ・サロン・ヨッパやあらゆるところを巡回						
場所	エルサレム					ダマスコ	アラビア	アラビア	ダマスコ	パウロ:エル・	サレム → シリ	ア・キリキヤ地ス	方へ伝道(バルブ	トバと共に:ガラ <del>・</del>	テヤ1-21) → ュ	ニルサレム → ア
<b>松</b> 合の山 東東	イエス昇天・聖霊降臨			ピリポはサマリヤへ	+ペテロとヨハネ	パウロの回心	パウロ: アラビ	アで静まる(	ガラテヤ1:17	)		異邦人への	フェニキヤ・キプロス・	ペテロがエルサレムで		アグリッパ1世
教会の出来事	エルサレム・初代教会			ステパノの殉教	女と迫害	- ハウロの回心						聖霊降臨	アンテオケに宣教拡大	異邦人に聖霊降臨を説明	•	による迫害
歴史 との出来事		ユダヤ総督								ローフ自幸ホルゲニ(2741)			ローマ皇帝クラウディス(41~54)			
歴史上の出来事	ピラト(26~36)							ローマ皇帝カリグラ(37~41)					44年~ユダ·エルサレムはローマの属州になる			
クリスチャン	11使徒+マッテヤ			エチオ	ピア宦官		バルナバ	アナニア		ユダヤ/ガリラヤ/	アイネヤ	コルネリオ		バルナバを	アガポ	
クラステマン				キリスト者が各地に離散			アナニア			サマリヤに広まる	ドルカス	ペテロの幻→	異邦人の受入	アンテオケに派遣	7 73 //	
聖書執筆																
聖書箇所		│ │使徒1~2章		使徒7	′~8章	使徒8~9章	   使徒9章					   使徒10章		   使徒11章		
						使徒9∶3~	1212-1	ガラテヤ1:17	ガラテヤ2:1			12.12				
	AD3年?に誕生	27歳?		ユダヤ教に	教会を激しく	ダマスコ途上	アナニアにより	アラビアから	ハリロを初ねて	シリヤとキリキヤ	ユダヤ人に	異邦人にも			バルナバが	バルナバが
パウロの				優れていた	迫害した	で主に会い	バプテスマを	ダマスコへ	エルサレムへ	に行き伝道	命を狙われ	聖霊の賜物			サウルを探しに	エルサレムに
ライフ デザイン				伝承に		回心	受ける		(15日間滞在)		避けてカイザリ	が注がれた			タルソヘ	連れて行き
				熱心だった			(使徒9:18)				ヤからタルソヘ					使徒達に紹介した



・キリキヤのタルソで生まれ、エルサレムで教育を受けた

•THE WAY

「この道」

・生れながらのローマ市民(使22:28)

・生粋のユダヤ人(使9:11, 21:39, 22:3)

と呼ばれた (9:2)

(ローマ市民権はもともと貴族に限られていたが、前337年には一般市民にも与えられるようになった)

・ベニヤミン族の出身, 父はパリサイ人(ロマ11:1, ピリ3:5, 使23:6)

・ユダヤ人としての教育を受けていた(律法や天幕作りの技術の修得ばかりでなく).

・1世紀最大のラビ、ガマリエルのもとで先祖の律法について厳格な教育を受けた(使22:3)

・先祖からの伝承に人一倍熱心であった(ガラ1:14)

・同年輩の多くの者たちに比べ、はるかにユダヤ教に長けていた

・ギリシヤ・ヘレニズム文化にもふれ、異邦人伝道への備えがなされていたと思われる

・コルネリオ:ローマ軍の百人隊長

アンテオケで初めてキリスト者

最初の異邦人信者

と呼ばれた(使徒11:26)

・どんな人のことでも、きよくないと言うな(28)

・バルナバ:聖霊と信仰に満ちたりっぱな人物(使徒11:24)



アクラ・プリスキラ夫婦とテントづくり

パウロの回心(ミケランジェロ作)



石打にあう

16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
	第1回伝道旅行			第2回伝道旅行				第3回伝道旅行					ローマへ				
AD45					AD50					AD55					AD60		
ンテオケ	アンテオケ→キプ ルステア→デルベ				I オケ→タルソ→デル・ )アンテオケ→トロアス		コリント			I →デルベ→ルステラ- エペソ→トロアス→ピ		ギリシャ	エルサレム	裁判~	・上訴してローマ	へ船旅	エルサレム→カイ 航行→キリキヤと
		、テラ→イコニオム- ・アタリヤ <i>→</i> アンテオ			<b>→テサロニケ</b> →ベレ・		地方総督ガリオ の迫害			ロニケ→ベレヤ→アデ							→クレテの島影をf
ヘロデ大王による迫害	大飢饉		エルサレ 使徒15	ンム会義 :1~30	ヨーロッパで最初の 教会設立(エペソ)		ペリクスの総	督在任52~56		ス→トロアス→アソス- ソロ→トレマイ→エル+		ユダヤ総督 ペリクス	ローマ皇帝 ネロ(54~68)	州総督フェスト		百人隊長ユリアス がローマへ護送	
ヤコブ殉教ペテロの投獄と救い		飢饉の救済 アンテオケ教会から	エルサレム14年振 第2回目の訪問	ユダ・シラスを つれアンテオケヘ	ルデヤ テアテラ市の紫布商人	アクラとプリスキラ				パウロは エペソに3年間		アガポの預言	大祭司アナニヤ の前で論争		エパフラス オネシモ(奴隷)		ヤコブ(主の兄弟) 殉教
				ガラテヤ書49?		I テサロニケ コリントで書かれた	コリントで書かれた II テサロニケ		書53~55	I コリント	エペソで書かれた マケドニアで書かれた	ローマ人			エペソ/コロサイ ピレモン	ローマの獄中	-
使徒12章	使徒13章 ガラテヤ 2:1~	使徒14章	使徒	:15章	使徒16章	使徒17章	使徒18章	使徒19章			使徒20章	使徒21章	使徒22~23章	使徒24	-∼26章	   使徒27章 	使徒28章
	伝道旅行	石打にされる 死んだと思われた 神の国に入るには		割礼論争パウロとバルナバと仲間が割礼のこと		ヤソンの助け偶像のアテネ	コリントに 1年半滞在	エペソ滞 パウロによる 驚くべき奇跡	在(2年3ヶ月) テモテとエラストを マケドニヤに送る	デメテリオの訴えによる混乱	自分が走るべき行程を走り尽くした	千人隊長がパウロを捕える	大衆の前でパウロの弁明議会の前に立つ	大祭司アナニヤ他	アでの投獄 がペリクスに訴える いラが信仰を聞いた	ローマへ	まむしに噛まれる 首長ポプリオが 三日間もてなす
	と宣言する	多くの苦しみが必要		でエルサレムへ	<b>第214世派111~</b>			(10~12)			E9ANCE.		ローマ市民を主張		よりカイザルに上訴		首長の父親を癒す
İ	•1040km(東京	京~下関) ・コレント/エペソ			・1460km(東 ・ピリピで牢獄へ		<ul><li>主の日について</li></ul>	・御霊の実 (ガラテヤ5:22)	•1600km(東	京~広島間往復 ・高ぶることのな	夏) ∵青年ユテコが		・サドカイ派(復活 パリサイ派(ある	5)	·社会倫理	・暴風に巻き込る	まれ難破
		の首都で交通の	要所として繁栄		・占い女の主人の					いようにと、肉体		ている=罪	両者を対立させ・アンテパトリスが		<ul><li>教会の形成(エ)</li><li>対異端(コロ)</li></ul>		
礼は不要と証言 訴えでムチ打ち・コリン・パウロとバルナ・看守と家族が ラとブ						義と認められる		与えられた。			・主が囚われのパ						
1				バの意見の衝突 信仰を持った ・バルナバはマルコ		出逢う ・再臨の強調( I	)	<ul><li>(ガラテヤ2:16)</li><li>・キリストが私</li></ul>		(Ⅱコリント12:7) ・教会の問題(Ⅰ)		の原理と罪と 死の原理	「勇気を出しなる		(コロサイ1:15~)		・テモテは父が ギリシャ人で
			とキプロスへ		·兄弟愛( I )		のうちに生きて		・悔い改めを(Ⅱ)		・割礼によらず	・40人以上の		・個人的手紙(ピ)		祖母と母が	

いる(ガ2-20)

•4項目(15:20)

・いつも喜祈感謝

ムチ打ちにあう ·青年が千人隊長に知らせて助かる (26:1~29)

献金について

・愛(Ⅱコリ13章)

・聖霊による神 ユダヤ人がパウ

口を殺そうと計画

の愛

ユダヤ人

アグリッパ王の前で見事な弁明と証し

34	35	36	37	38	39	40	41
		ローマでの宣教					
		AD65					AD70
/ザリヤ→シドン→: パンフリヤの沖を船			ローマ				
航行→良い港寄航	→暴風難破→マ			ローマ軍			エルサレム神殿
クサ→レギオン→フ	ポテオリ→ローマ ・			ガリラヤ制圧			破壊
	ローマの大火 迫害				ネロの死		
パウロの裁判 釈放?	ペテロ殉教(64~67年)		パウロ再び逮捕				
I	テモテ & テト	·ス	ローマの獄中				
	ニコポリ書かれた		ΠŢ	モテ			
	ローマ	で投獄		パウロ殉教			
<ul><li>番兵付きであ</li></ul>	ったが、自分で作	昔りた家に2年間	目住んだ	(AD64~68)			
・誤解を解くため	かに、ユダヤ人を	を集めて事情を記	说明した				
<ul><li>尋ねてくる人力</li></ul>	たちを迎え、神の	国を大胆に述べ	く伝えた	<b>乡老立</b> 郡			

牧会書簡〈Ⅰ・Ⅱテモテ&テトス〉

テモテを励す・テトスはギリシャ人

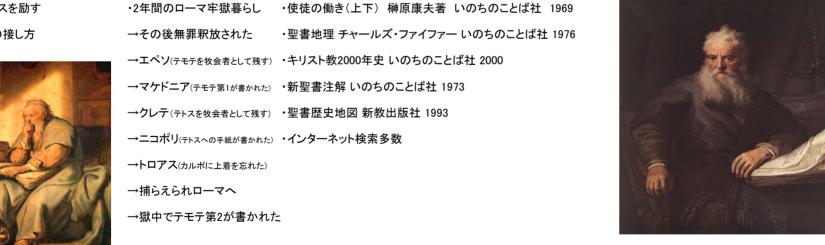
・牧会の原則 ・テトスを励す (Iテモテ)

人の接し方

パウロの晩年

参考文献 •新改訳聖書第三版

・新約聖書概観 メリル・テニイ著 聖書図書刊行会1962







パウロの晩年(レンブラント作)

